

県指定史跡

三池平古墳

Miikedaira Tumulus



静岡市観光交流文化局文化財課



■ 利用案内 ■

- 交通 【バス】JR 清水駅西口バスターミナル1番のりばから
静岡バス（系統番号 244）庵原線トレーニングセンター
行きで約 20 分「トレーニングセンター」バス下車すぐ
【車】東名清水 IC から約 10 分 古墳北側に専用駐車場有り
- 公開時間 いつでも自由に見学できます。
- 見学料 無料
- 出土遺物 「静岡市埋蔵文化財センター」にて公開中。
- 注意事項 古墳内および周辺は禁煙・火気厳禁です。
ゴミ、空き空きビンなどはお持ち帰りください。
※トイレ有り。

■ 問い合わせ先 ■

静岡市役所観光交流文化局文化財課 埋蔵文化財係
〒420-8602 静岡市葵区追手町 5 番 1 号
TEL 054-221-1069
FAX 054-221-1451

静岡市埋蔵文化財センター
〒424-0032 静岡市清水区横砂東町 33 番 2 号
TEL・FAX 054-367-9436

編集・発行 静岡市観光交流文化局文化財課

所在地 静岡市清水区原および山切

- 経緯 昭和 31 年 3 月 古墳の発見
昭和 33 年 4 月～5 月 第 1 次発掘調査（庵原村教育委員会）
昭和 57 年 7 月～8 月 第 2 次発掘調査
平成 4 年 11 月 20 日 清水市史跡指定（3,606 m²）
平成 5 年 7 月～11 月 保存整備に伴う発掘調査
平成 6 年 9 月～10 月 農道建設に伴う確認調査
平成 7 年 8 月～10 月 保存整備に伴う発掘調査
平成 8 年 8 月～12 月 //
平成 9 年 9 月～12 月 //
平成 13 年 3 月 15 日 静岡県史跡指定（10,380.23 m²）
平成 19 年度 整備実施設計作成
平成 20 年度 整備工事着手
平成 21 年度 整備工事完成

■ 復元整備 ■

墳丘の後円部側の一部は削平されていたため、残存していた墳丘のくびれ部分の角度を参考に墳丘の盛土を復元しました。



墳丘くびれ部（平成 9 年）

石室は保存のために埋め戻し、墳丘上にレブリカを設置しました。排水溝は石室からくびれ部付近に向け設けられていましたが、墳丘上に復元し、裾石は部分的（＝発掘調査で確認した箇所）に復元設置しました。周溝も復元し、表面に芝を張っております。



石棺蓋（昭和 33 年）

Miikedaira Tumulus

Miikedaira Tumulus is built as Keyhole-shaped mounded tomb at beginning of the 5th century. A. D.

The total length of Miikedaira Tumulus is 68 meter. The inner structure shows a type which belongs to a comparatively ancient times, and the like ones are very few in number not only in Shizuoka prefecture but also in the entire eastern Japan.

古墳の概要

静岡県指定史跡三池平古墳は、標高 55mの丘陵上に位置する 5世紀初頭の前方後円墳です。

この古墳は、昭和 31 年に蜜柑畑の農作業中に発見され、昭和 33 年に最初の発掘調査が行われました。墳丘は全長約 68mで、後円部は三段に築成されています。一段目の墳丘は丘陵の斜面が下る南西方向のみに設けられ、その上に二段目・三段目の墳丘が築成されています。墳丘裾には部分的に裾石が置かれ、墳丘の北から東側には浅い周溝が巡っていました。

主体部は、後円部中央につくられた竪穴式石室です。この石室は、板石を小口積み（加工面が見えるように積む工夫）にした上に 7枚の蓋石を乗せ、さらに厚さ 25 cm前後の粘土で覆ったもので、その中央にはくり抜き式の割竹形石棺が納められていました。石室内と石棺の内面には水銀朱が塗られており、被葬者は、骨の分析から比較的若い成人男性と考えられています。



石棺内部（昭和 33 年）

このような主体部の構造は、これより東国の、この時期の古墳からは発見されておらず、また、帆立貝形石製品など出土遺物にも特殊なものがみられることから、この古墳の重要性を知ることができます。

★帆立貝形石製品

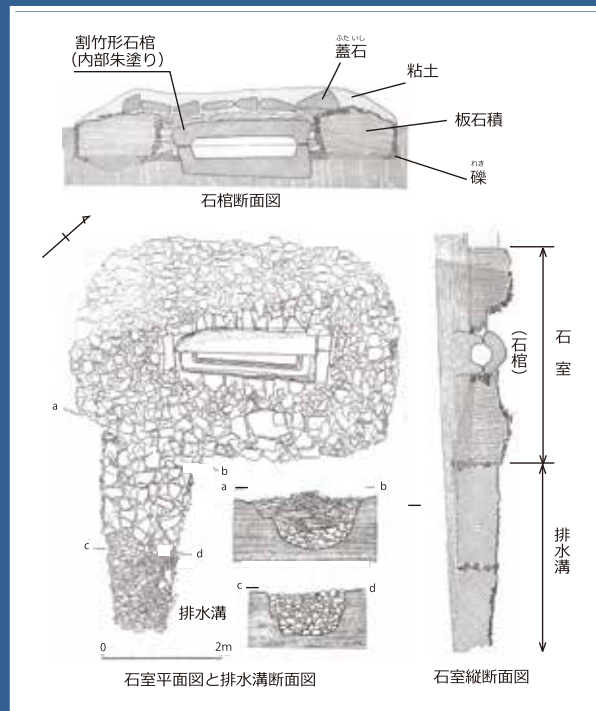
淡緑色を呈した碧玉製で帆立貝の形に似ている。片面は平坦だがもう片面は隆起しており、小円孔が一つ貫通している。磨き上げであるため光沢があり、出土例は、三池平古墳のほかは奈良県の日葉酢媛陵のみである。



主体部発掘（昭和 33 年）



古墳全体図



※出典：『三池平古墳』1961 に加筆
主体部構造図

発掘調査の結果、石棺内からは石釧、車輪石、ガラス製勾玉、ガラス製小玉、碧玉製管玉などの装身具が、石棺外からは変形方格規矩四神鏡・四獣文鏡・筒型銅器・帆立貝形石製品・紡錘車形石製品・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・刀子・鏝・鏝・鉄斧・鉄鋤先・鎌など数多くの副葬品が出土しました。



変形方格規矩四神鏡

★変形方格規矩四神鏡

中央の四角形の区画内に TLV 字状の幾何学文様を組み合わせ配置し、四方に古代中国の四神（朱雀・青竜・白虎・玄武）を配置した国産の鏡。



帆立貝形石製品



装身具の数々